

## ローザンヌ・グローバル分析・主な動向（2015. 9～2016.7）

### <ローザンヌ運動>

#### \* 「2010 ケープタウン会議のインパクト」 2015 年 11 月

4重のビジョンに基づき、現在も36のIssueネットワーク。2017年にドイツ・ヴィッテンベルグで宗教改革500周年のローザンヌ会合を約70人のリーダーたちで祈り、今後の計画を立案予定。

#### \* 「ローザンヌ運動とは？そしてどこへ？」 2016 年 7 月

マタイ 5: 13-16 の地の塩、世の光がローザンヌ運動の一つの枠組み。

未来のミニストリーの原則として推奨されるのは、重複せず、できる限りパートナーを見出し協力する；先端の課題に焦点；創造的で批評的な視点を持つ正直な仲介役を買って出る；一つの見解が突出しないように世界レベルで聞きあい、思いめぐらしあう；あらゆる地域、社会のあらゆる側面、そして思想において聖書の権威の下に生きる；孤立ではなく、ネットワークにより深みに向かう。

### <被造物ケア>

#### \* 「パリ会合以降の気候変動への対応：福音派教会に求められること」 2016 年 5 月 青木氏詳細。

#### \* 「回復を目指す経済」 2016 年 3 月

「ヨベルの年」の概念で、聖書の包括的な「シャローム」の重要な制度を構築する提案。この「回復を目指す経済」では、人々の内なる「神のかたち」を尊重することに着目。収入の分かち合いにとどまらず、ライフスタイルの変化が求められる。経済的損得での論争ではなく、人間の尊重という道徳性から説得。

### <イスラム教の動向>

#### \* 「女性イスラム教徒のモスク内運動に連携して」 2016 年 7 月

女性の地位について様々な見解を女性たちが討論する動きが、イスラム教徒の世界で広がっている。女性特有の課題である結婚、離婚、暴力についてクルアンから見解を深める。

#### \* 「トルコにおけるイスラム教本 ハディース選別プロジェクト」 2016 年 7 月

トルコのイスラム神学者らにより 2013 年半ばに発行された、近代イスラムにふさわしいハディースの教えの選別本について。世界のイスラム学者の間で、ハディースの扱いについて保守派から否定派まで多様。キリスト者の理解として、イスラムのアイデンティティに関する論争が進行中で、文字通りの理解の原理派から近代的、改革的理解を推進する合理派まで。イスラム過激主義は、イスラムの経典に由来する可能性あり。

#### \* 「タブリギ・ジャマト（TJ イスラム教の伝道的な集会）の現状」 2015 年 11 月

世界で8千万人以上のイスラム教徒たちが所属するグループ。活動目的は他宗教者への伝道ではなく、後退したイスラム教徒の信仰強化での地上でのイスラムによる支配を目指す。グループ内での結束強調し、カルト的。イスラムの教えを6つに集約。TJは直接、テロを煽らないが、過激思想に染まりやすい状況を形成、ネットワークの場として使われやすい。TJに参加するイスラム教若者は、この世界に希望を見出せず、真実のつながりを求めている。

### <国家と迫害>

#### \* 「国家と迫害～最新動向」 2016 年 3 月

一つの宗教が、社会的政治的に多数派によって占められる国ほど、少数派の宗教追従者に対する不

寛容、迫害、人権侵害は頻発。長期的にはキリスト教への社会的憎悪は世界的に強まる。福音派キリスト教は、互いを受け入れるオープンさ、寛容、信仰表現の多様性を奨励する社会を作り上げることを通して、すべての市民、そして宣教にも有益であると理解すべき。

オズ・ギネスら数人の福音派の人々は「良心のグローバル憲章」に署名確認し、2つの傾向に留意を促す。「一つの宗教だけを維持しようとする政治の介入と自然進化論的世界観、つまり非宗教的世界観を唯一のあり方とする考えの広がり」。2015年、福音派リーダーたちが、非宗教派の人々とも「市民性 (Civility)」について実のある意見交換しようと Civilitas 集会を設立。

## <各地域の情報>

### \* 「シリア危機」

シリア国内の教会が直面する課題：

- ① 心理的ショック；シリアとイラクで、キリスト教徒は平和で特権も与えられていた。教育レベルが高く、ビジネス、政府の仕事でも重要な役割を担ってきたため、いまだに心理的ショック状態。
- ② 避難民；シリア中部のホムスではキリスト教徒居住地域が壊滅。
- ③ 海外への移民：過去数年の間に、シリアのキリスト者の内 40 万から 50 万人が移民となったと言われる。戦争前のシリア国内キリスト者割合は 9~10%。
- ④ テロ；IS だけでなく、45 にも及ぶ様々なテログループの残虐さに直面。2011 年以来、IS は戦略的にキリスト者地域を支配しようとしてきた。キリスト者の成人も子どもも心理的外傷に苦しむ。

5つの教会ネットワークが活動。以前は非キリスト者を支援することはなかったが、現在は伝道と社会的活動の双方推進。神学的な振り返りでは「迫害の神学」。残虐な侵略者に対し、武器を持つか。和解と赦し。パレスチナ・イスラエル、エジプト、スーダン、ヨルダン、レバノン、シリアでの神学者と牧師が集まる「アラブ世界の神学的考察フォーラム」が2年の間に2回開催。

シリアの教会はいまだかつてなかった一致へ。IS には、世俗の政府に幻滅した貧しいスンニ・イスラム教徒の多くが支持を表明。一方で、中庸だったイスラム教徒はイスラムに幻滅し、キリスト教への回心者多数。レバノン、エジプトの教会が、中東全域のために貢献しようと動き始めている。

世界の教会への3つの教訓：①敵対的現実には備える必要。神が語ることと社会が語ることの両方を聞く必要。②少数派でも決して失望しない。ふさわしい影響を及ぼし、用いられる。③神の主権と神が必ず良いことをしてくださることを信頼する。

### \* 「中国の現状」2016年1月

2015年9月に、中国から2万人の宣教師を派遣するミッション・チャイナ2030のビジョンを共有するため、本土から850人の家の教会指導者や若者たちが香港に集合した。世界宣教に関して、中国は西洋や韓国の達成と失敗から教訓を学ぶ必要がある。

### \* 「アフリカ、2050年に向けて」2015年11月

15歳以下の人口が2050年にピークの6億6千3百万人になる予測。若者たちがイエスの愛に出会う戦力的な時期に。

### \* 「米国銃撃事件を受けて：教会は制度的不公正に対して和解の道を示せるのか」2015年9月

### \* 「高齢化する教会～世界の21世紀半ばに向けて」2016年5月

### \* 「世界の福音派」2015年9月

憐みと行動こそ、イエスがなさったことで福音派が従うべきこと。「多数派世界」の教会の活気を理解している西洋の神学者は限られる。複雑で多様な文脈の中で、福音を核として生きている。